

TOSHIBA

東芝デバイス&ストレージ株式会社
環境報告書2020

Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation
Environmental Report 2020

目次

● 会社概要	02
● トップコミットメント	03
● 東芝グループ第6次環境アクションプラン	04
● 東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス目標・実績	05
● バリューチェーンマネジメント	08
● 社会課題の解決に貢献する製品	09
● 製品における環境負荷低減	11
● モノづくりにおける環境負荷低減	13
● 地球温暖化対策	14
● 高効率な水の利用	15
● 廃棄物の発生量削減と資源循環への貢献	16
● 化学物質の管理および削減による環境リスクの低減	17
● 環境コミュニケーション	18
● 生物多様性保全の取り組み	20
● 表彰活動	21
● 環境経営の基盤	
● 環境経営体制・環境経営を支える活動	22
● ISO14001認証取得情報・第三者評価への協力	23
● ステークホルダーエンゲージメントの状況	24
● 環境方針	25
● 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」との対応表・編集後記	26

編集方針

この環境報告書は、東芝デバイス&ストレージ株式会社グループの環境経営の取り組みを2019年度の実績を中心にまとめたもので、ステークホルダーの皆様(利害関係を有する方々)にわかりやすく報告する事を目的に発行しています。

全体の構成としては、製品における環境負荷低減活動、モノづくりにおける環境負荷低減活動、環境コミュニケーション活動それぞれの実績や計画、活動体制、環境方針をご紹介することを主目的として制作しています。また、今回の報告書では、環境省の「環境報告ガイドライン2018年版」などを参考にしています。

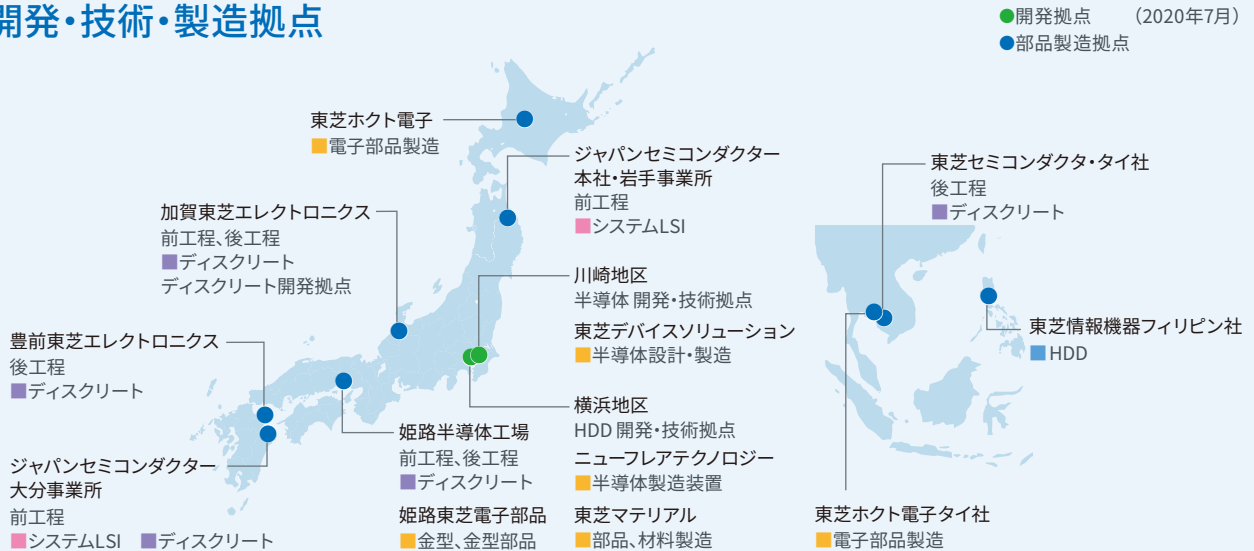
東芝デバイス&ストレージ株式会社 概要

当社は2017年7月に株式会社東芝の社内カンパニーから独立し、発足しました。

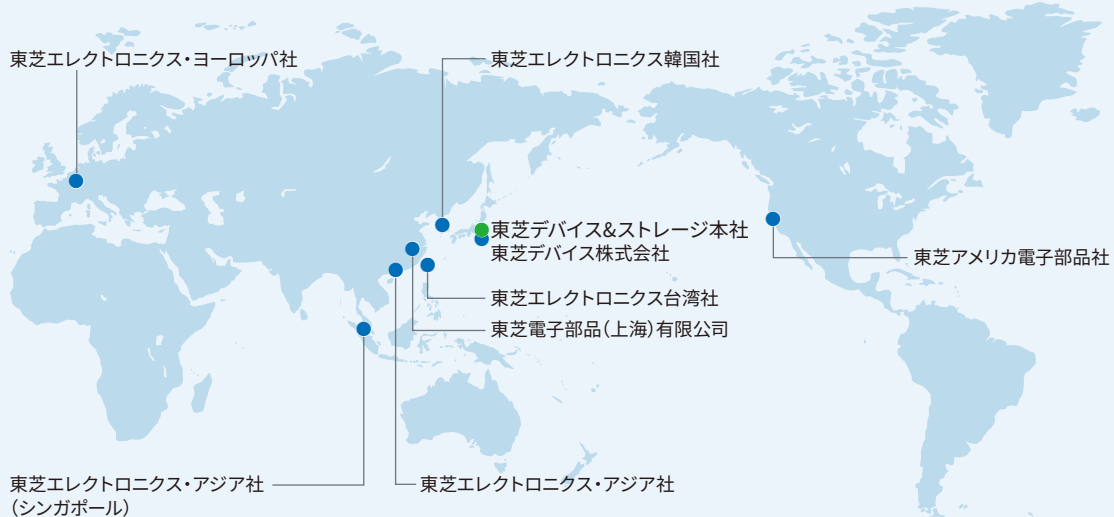
従来からの半導体事業、ストレージプロダクツ事業、(株)ニューフレアテクノロジーが手がける半導体製造装置事業の他、2019年4月から東芝マテリアル(株)と東芝ホクト電子(株)が担当する部品・材料事業も含めて、幅広い部品事業を担っております。

各事業の経験や知見を持ち寄って、より付加価値の高い製品づくりを目指してまいります。

開発・技術・製造拠点

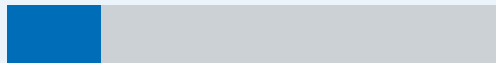


販売拠点



従業員数

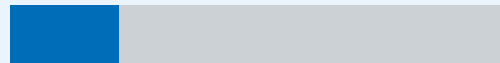
24,200人 (2019年度)



東芝グループ全体の約19%

売上高

7,456億円 (2019年度)



東芝グループ全体の約22%

■当社
■当社を除く東芝グループ全体

トップコミットメント



東芝デバイス&ストレージ株式会社
代表取締役社長 佐藤 裕之

はじめに

近年、地球温暖化、海洋汚染、野生生物種の減少といった、環境に関わる社会課題が深刻化しており、また今年に入って猛威を振るっているCOVID-19により、人々の生活や経済活動もあらゆる変化や制約を求められ、それが地球環境にもさまざまなインパクトを与えています。一方で、今年パリ協定の実施開始年として、脱炭素化に向けた動きや、2015年9月に採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、さまざまな取り組みが加速していくものと思われまます。私たち企業は自社のビジネスを通じてこの取り組みを進めていくことが必要です。こうした状況のもと、東芝グループでは、2050年のあるべき姿を掲げた長期目標「環境ビジョン2050」の実現に向け現在、2017年度から2020年度を活動期間とした「第6次環境アクションプラン」を推進しており、さらに2020年度中にSBT^{*1}認定取得を目指し、2021年度以降も省エネ施策や省エネ製品創出拡大を計画しています。その上で、当社グループの役割は高く責任も重大です。今後環境活動を経営の最重要課題の一つとして位置付けし、取り組んで参ります。

事業を通じて社会課題解決への貢献と企業価値を向上させます

当社グループは、自社の事業活動による社会・環境への影響に対する責任(CSR^{*2}環境経営)と、社会課題解決への貢献(CSV^{*3}環境経営)の両面を踏まえた環境経営活動を実践します。まずCSR環境経営として、製品の製造段階における環境負荷低減を推進して参ります。グローバルでモノづくりを展開している当社グループとしましては、特に気候変動の緩和の為に様々な省エネ施策の推進に加えて、高効率製造装置の導入などの投資も積極的に行うことで、製造段階での環境負荷低減を進めます。また、投入資源の最小化や3Rにより、資源循環型社会の構築に貢献すると共に、使用する化学物質の管理、取扱量並びに排出量の削減に取り組む環境リスクの低減を図ります。一方、CSV環境経営として、今後予想される産業機器のIoT化や省エネ化、自動車

の電動化の進展や環境対応車の普及、更には情報量の爆発的増大など、人びとの生活や産業の発展に寄与する製品・サービスを提供して参ります。また製品に関する法規制を順守し、グリーン調達を通じてサプライヤーの皆様ともしっかり連携を図りつつ、社会課題に対応する先駆者としての技術と想いで「世界を変える原動力」となるべく取り組んで参ります。

ステークホルダーの皆様への信頼醸成に努めます

当社グループは、グローバルで製品提供とモノづくりを展開している企業として、果たすべき社会的責任を認識し、法令の順守や人材育成、地域・社会への貢献を通じて、ステークホルダーの皆様への信頼醸成に努めて参ります。各拠点においては、市民、近隣企業、大学、行政等の皆様をお招きした環境報告会や、小学生向けには半導体出前環境授業を実施し、創出した製品の社会貢献をご理解頂き東芝ファンを拡大すると共に、環境活動へのご理解を深めていただいております。また、地域の特性を活かした森林保全整備活動や希少動植物の保護活動といった生物多様性保全活動も積極的に推進しています。そして、当社グループ全従業員を対象として実施する環境教育や、著しい環境側面の業務に関わる特定業務従事者への個別教育、自主管理体制強化に繋げる監査員養成教育など、さまざまな教育を実施し、従業員の環境意識や力量の維持・向上に取り組んで参ります。

引き続き、当社グループの事業を通じた環境経営活動につきましては、今後もステークホルダーの皆様に向けて積極的に発信して参ります。「世界を変える原動力」となるべく、今後とも、当社グループの事業活動、ならびに環境経営活動につきまして、何卒ご理解、ご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

*1: Science based targets (科学的根拠に基づいた排出削減目標)

*2: Corporate social responsibility (企業から生じる環境影響を緩和する取組み)

*3: Creating shared value (競争力強化に役立つ形で行う取組み)

東芝グループ 第6次環境アクションプラン

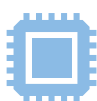
東芝グループは、環境ビジョン2050が描く「2050年のあるべき姿」に向けて、環境に関する中期目標「第6次環境アクションプラン」（活動期間：2017年度～2020年度）に基づき、現在活動を実施中です。策定にあたっては、COP21でのパリ協定採択や国連サミットでのSDGs採択、ESG投資の運用開始といった外部要因、事業構造の変化などの内部要因、第5次環境アクションプラン（活動期間：2012年度～2016年度）の成果や反省点など、様々な要素を考慮したうえで、東芝グループがこれからの4年間で真に力を入れるべき活動は何かを検討いたしました。

内容に関しましては、「Business（モノづくり、製品・サービス）」「Management」の2領域において、全15項目の目標を設定したものとなっております。

「環境アクションプラン」は数年ごとに見直され、グローバルな環境課題の解決に効果的に貢献しています



第6次環境アクションプランの注力領域



Business（製品・サービスの環境性能向上）：

製品製造時および使用時におけるCO₂排出抑制、製品小型化などの省資源化、製品に含まれる特定化学物質の削減を通して、低炭素社会の実現につながる省エネ製品を展開します。



Business（モノづくりの環境負荷低減）：

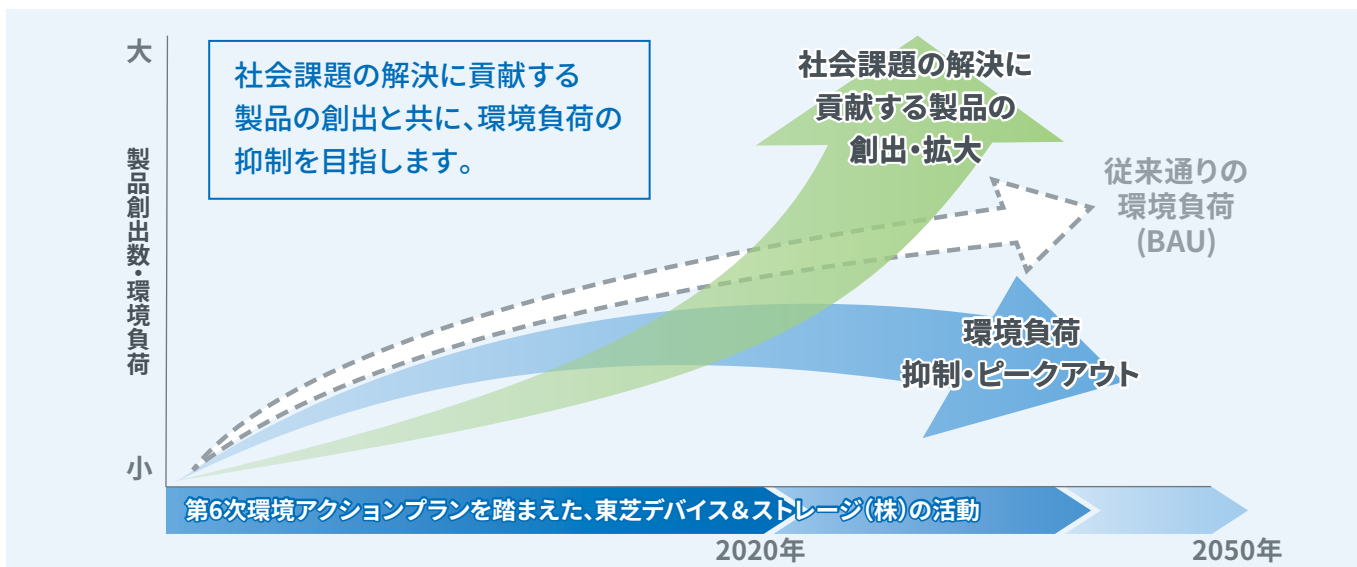
工場における温室効果ガス排出、化学物質排出、廃棄物発生、水受入を抑制し、環境負荷とコストを同時に削減する高効率なモノづくりを追求します。温室効果ガスと廃棄物については「原単位」と「総量」の両面での管理を継続して行っています。



Management：

東芝グループ内で複数の法令違反が発生している状況を受け、「環境リスク・コンプライアンス徹底」を含めたグローバル環境法規制対応の強化や環境人材育成に注力し、リスクを常に監視できる体制づくりをめざします。

第6次環境アクションプランを踏まえた、東芝デバイス&ストレージ(株)グループが目指す環境貢献活動のイメージ



東芝デバイス&ストレージ株式会社

環境パフォーマンス目標・実績(全11項目)

下表は、東芝グループ第6次環境アクションプランを踏まえた、当社グループの環境パフォーマンスの実績および計画になります。全15項目のうち、11項目を当社目標として設定しました。

※2017~18年度実績値は、東芝マテリアル(株)分と、東芝ホクト電子(株)分を含みません。

① 社会課題の解決に貢献する製品の創出拡大 (p.09)

2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
実績	実績	目標	実績	評価	目標
(別指標で管理)	3製品	3製品	5製品	○	5製品

取り組みとSDGsへの貢献

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



製品使用時の消費電力量削減や、小型化・軽量化を実現した製品を開発・提供し、その製品を使用したお客様の最終製品における省エネと温室効果ガス削減を実現します。

合わせて、これらの製品を社会課題の解決に貢献する製品として、環境報告書を通して積極的に訴求しています。

② エネルギー起源CO₂総排出量削減 (p.14)

2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
実績	実績	目標	実績	評価	目標
64.1万t-CO ₂	63.4万t-CO ₂	75.2万t-CO ₂	66.1万t-CO ₂	○	71.6万t-CO ₂

取り組みとSDGsへの貢献

13 気候変動に
具体的な対策を



クリーンルームの空調最適化による電力使用量削減、廃熱の回収利用拡大による都市ガス使用量削減などの施策を継続。

これにより、省エネと温室効果ガスの削減を実現しています。

③ PFC排出量削減 (p.14)

2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
実績	実績	目標	実績	評価	目標
13.8万t-CO ₂	12.9万t-CO ₂	15.2万t-CO ₂	11.3万t-CO ₂	○	12.8万t-CO ₂

取り組みとSDGsへの貢献

13 気候変動に
具体的な対策を



PFCの回収・再利用、新規設備への除害装置導入などの排出量削減施策を継続。

地球温暖化効果がCO₂の約1万倍のPFCを削減することにより、温室効果ガスの削減を実現しています。

④ 水受入量削減 (p.15)

2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
実績	実績	目標	実績	評価	目標
14,029km ³	14,023km ³	17,069km ³	14,559km ³	○	15,944km ³

取り組みとSDGsへの貢献

6 安全な水とトイレ
を世界中に



12 つくる責任
つかう責任



純水製造装置の運用方法最適化による工水使用量削減、井戸水の利用、水の再使用、再生使用などの施策を継続し、水資源を持続可能なものとしています。

14 海の豊かさを
守ろう



また、使用した水資源は受入れ時よりもきれいにして排出することで、衛生的な水の利用可能性を確保し、また海洋・海洋資源の保全を図っています。

⑤ 廃棄物総発生量削減 (p.16) / ⑥ 廃棄物量削減 (p.16)

目標	2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
	実績	実績	目標	実績	評価	目標
廃棄物 総発生量削減	1.66万t	1.61万t	2.18万t	1.89万t	○	2.06万t
廃棄物量削減	1.03万t	1.01万t	1.27万t	1.08万t	○	1.22万t

取り組みとSDGsへの貢献

12 つくる責任
つかう責任



【廃棄物総発生量】

生産プロセス改善による金属、樹脂などの資源消費の最小化、薬品使用量適正化による汚泥発生量削減、廃棄物のリサイクル推進などの施策を継続。

【廃棄物量】

(廃棄物量=廃棄物総発生量-有価物量)

金属材料などの有価物化推進施策を継続。これにより、持続可能な生産消費形態を確保します。

⑦ 化学物質排出量削減 (p.17)

2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
実績	実績	目標	実績	評価	目標
222t	229t	271t	251t	○	240t

取り組みとSDGsへの貢献

3 すべての人に
健康と福祉を



12 つくる責任
つかう責任



化学物質投入量の最適化、製造プロセス改善などの「使用時の削減」施策と、化学物質のリユースや回収適正処理、排ガス処理や排水処理による無害化、凝縮沈殿による除去などの「排出時の削減」施策を継続。

これにより化学物質排出に伴う、人々の健康や環境へのリスクを低減します。

8 生物多様性保全活動推進 (p.20)

2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
実績	実績	目標	実績	評価	目標
7サイトで実施	11サイトで実施	愛知目標への貢献 11サイトで推進	愛知目標への貢献 11サイトで推進	○	愛知目標への貢献 11サイトで推進

取り組みとSDGsへの貢献

4 質の高い教育を
みんなに



6 安全な水とトイレ
を世界中に



11 住み続けられる
まちづくりを



14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



希少動植物の保護、工場敷地内のビオトープ整備、森づくり、川にホタルを呼び戻す活動、棚田再生などの活動を継続。

これらの活動を通して、生態系の保護・回復を図るとともに、近隣住民や学校の児童に生物多様性保全活動の意義についての理解の浸透を図ります。

9 社会コミュニケーション推進 / 10 地域コミュニケーション推進 (p.18)

目標	2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
	実績	実績	目標	実績	評価	目標
社会コミュニケーション推進	広報・広告・展博 での訴求実施	広報・広告・展博 での訴求実施	広報・広告 での訴求	広報・広告 での訴求	○	広報・広告 での訴求
地域コミュニケーション推進	サイト地域 コミュニケーション	サイト地域 コミュニケーション	サイト地域 コミュニケーション	サイト地域 コミュニケーション	○	サイト地域 コミュニケーション

取り組みとSDGsへの貢献

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



環境報告書、環境ホームページ等、あらゆる媒体を通じ環境活動の取り組みをステークホルダーの皆様積極的に開示します。

また、各工場において、住民との対話・交流、教育など地域コミュニケーションを図り、工場と街との共生をめざします。

11 環境意識の向上 (p.22)

2017年度	2018年度	2019年度			2020年度
実績	実績	目標	実績	評価	目標
意識向上施策実施	意識向上施策実施	意識向上施策	意識向上施策実施	○	意識向上施策

取り組みとSDGsへの貢献

4 質の高い教育を
みんなに



全従業員向け環境教育、監査員教育、営業担当者向け法令教育など各教育の実施や、社内広報による環境活動の発信を行い、従業員の環境マインド醸成を図っています。

バリューチェーンマネジメント

ステークホルダーの皆様との対話などを通じて、調達・開発・製造・物流・使用段階における重要な環境課題を適切に特定し、その課題の予防や対応に有効な体制を構築しています。(下表参照)

また、お客様からグリーン調達方針の順守や順守状況等に関する情報提供を求められた場合は、それらへの対応方針や対応状況についてご説明いたします。(p.12参照)

ステークホルダー	段階	環境課題への対応
調達先様	調達	グリーン調達ガイドラインの順守…………… (p.12)
		国内・海外の環境法規制の順守…………… (p.12)
当社グループ	開発	化学物質の含有確認…………… (p.11)
		製品の小型化・軽量化…………… (p.11)
	製造	低消費電力化設計…………… (p.11)
		工程数の削減…………… (p.11)
当社グループ	物流	温室効果ガス排出削減…………… (p.14)
		水受入量削減…………… (p.15)
当社グループ	製造	廃棄物発生量削減…………… (p.16)
		化学物質使用・排出・廃棄量削減…………… (p.17)
当社グループ	物流	大気・河川への有害物質排出防止…………… (p.22)
		温室効果ガス排出削減(配送ルート最適化等の施策)
お客様	使用	製品の小型化・軽量化…………… (p.11)
		使用時の低消費電力化…………… (p.11)

社会課題の解決に貢献する製品

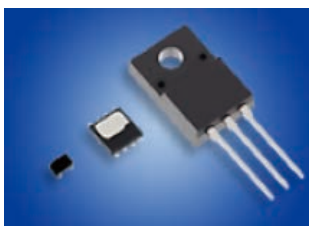
画像認識プロセッサ Visconti™シリーズ



- 3 すべての人に健康と福祉を
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 13 気候変動に具体的な対策を

製品概要	高性能と省エネを両立した車載用画像認識プロセッサです。
役立ちポイント	カメラから入力された画像を瞬時に識別、ドライバーに危険を知らせます。
環境への貢献	マルチコア、独自の画像処理回路等で省エネ、地球温暖化防止に貢献します。

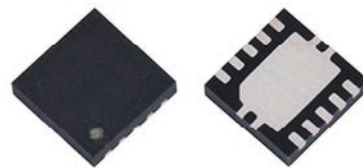
パワー半導体U-MOSIXシリーズ



- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 13 気候変動に具体的な対策を

製品概要	損失を低減したプロセスを採用しています。
役立ちポイント	発熱が抑えられ、搭載機器の小型化も可能になります。
環境への貢献	省エネにより地球温暖化防止に貢献します。

eFuse IC TCKE8xxシリーズ



- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 12 つくる責任 つかう責任

製品概要	繰り返し使える電子ヒューズです。
役立ちポイント	瞬時に電源を切って装置を守ります。
環境への貢献	交換が不要で廃棄物を出しません。

ヘリウム充填 NL HDD



- 4 質の高い教育をみんなに
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 13 気候変動に具体的な対策を

製品概要	空気より分子の小さいヘリウムを充填したHDDです。
役立ちポイント	サーバー等に使用されて社会の情報インフラを支えています。
環境への貢献	ヘリウムの充填により回転の抵抗が減って省エネ、大容量化も達成しています。

Arm® Cortex®-M4コアマイコン



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



製品概要

高速データ処理、豊富な機能を搭載した高性能なマイコンで、豊富なラインナップがあります。

役立ちポイント

OAやAV機器などの大規模システムの制御を可能にします。

環境への貢献

低消費電力と高機能を両立し、搭載機器の省エネを実現、地球温暖化防止に貢献します。

※Arm、Cortexは、米国および/あるいはその他の国におけるArm Limited（またはその子会社）の登録商標です。

窒化ケイ素セラミックス ベアリング(軸受)ボール



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



製品概要

スチールの代わりに窒化ケイ素セラミックスを使ったベアリング(軸受)ボールです。

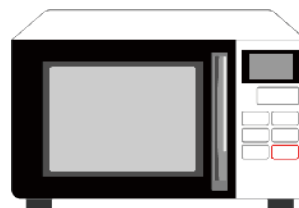
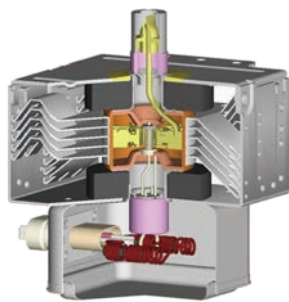
役立ちポイント

絶縁体であること、腐食や錆が発生しないため、過酷な環境での使用に適しています。

環境への貢献

耐摩耗性に優れており長寿命、鉄製の半分の重さで、省エネ、省資源化に貢献します。

マグネトロン



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



製品概要

毎日の生活に欠かせない電子レンジ。マグネトロン*でマイクロ波を発生、食品の水分子を振るわせた摩擦熱で加熱しています。(※真空管の一種)

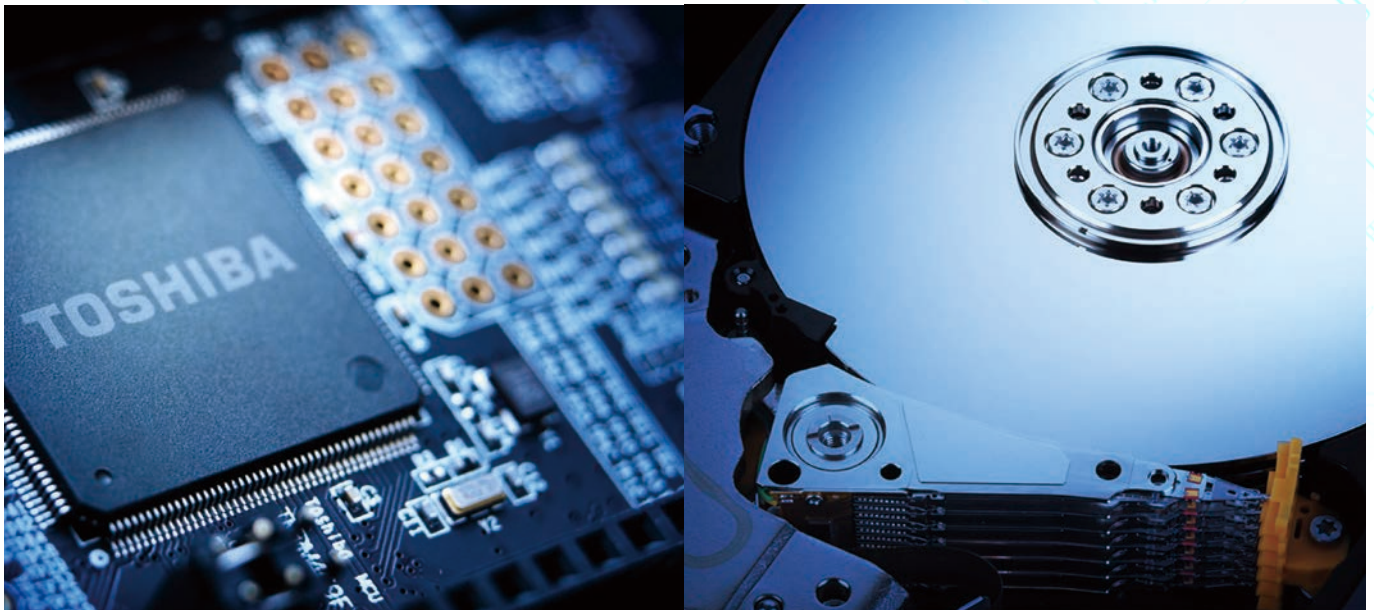
役立ちポイント

世界に先駆けて長寿命、高効率&低ノイズ管の製品化を実現しました。

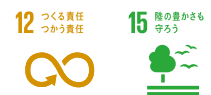
環境への貢献

効率よくマイクロ波を発生させることで省エネを実現、地球温暖化防止に貢献します。

製品における環境負荷低減



製品設計・開発段階の環境配慮



製品設計・開発段階、資材調達段階から省エネと製品に含有する化学物質の管理に取り組み、環境に配慮した製品を創出しています。



化学物質の含有確認：

製品に使用する原材料や部品に含有される化学物質の状況を確認し、制限物質を使用しない材料選定や、環境負荷の小さい技術開発、製品の設計・開発を推進しています。また、製品環境アセスメントを実施し、製品に関連する法令や各種規制への適合を確認しています。



製品の小型化、軽量化：

製品パッケージを小型化、軽量化して原材料の使用量を減らすことで、当社製品を搭載したあらゆる電気機器の小型化、省資源化にも貢献します。



低消費電力化設計：

パワー半導体のON抵抗を低くして電力損失を低減し、製品使用時の消費電力を下げるなどの低消費電力化設計を実現します。

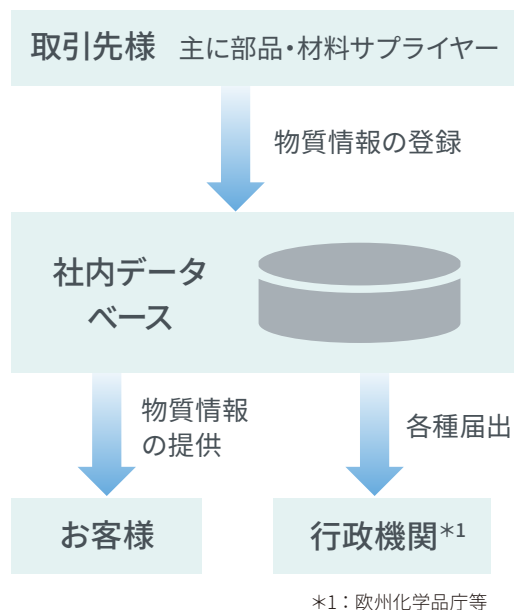
また、SiC(シリコンカーバイド)やGaN(ガリウムナイトライド)といった化合物半導体で従来のシリコンデバイスの性能限界を大幅に超えるデバイスの開発も進めています。



工程数の削減：

設計・開発の段階から高効率な量産体系の構築をしています。製造時の工程数を減らすことで電力消費量を削減しています。

環境に配慮した資材調達



当社グループでは、グリーン調達ガイドラインを制定し、環境に配慮した調達活動を展開しています。

取引先様との取引開始にあたっては、同ガイドラインの内容を説明の上、「環境品質管理システム構築調査票」を提出頂き、環境システムの構築、規程標準類の整備による管理システム構築、工程管理体制の構築について確認しています。

同時に、「調達禁止物質」、「調達管理物質」の含有状況を含む製品含有化学物質情報について取引先様より収集し、同ガイドラインへの順守状況を確認するとともに、左図の通り物質情報を社内データベースに登録・保管しています。

また、取引先様からグリーン調達活動に対する理解を頂くため、継続的に説明会を実施し、ご協力をお願いをさせて頂いています。

国内・海外の環境法規制の順守



製品に係る化学物質の規制は現在世界各国で施行され、また制定されようとしています。

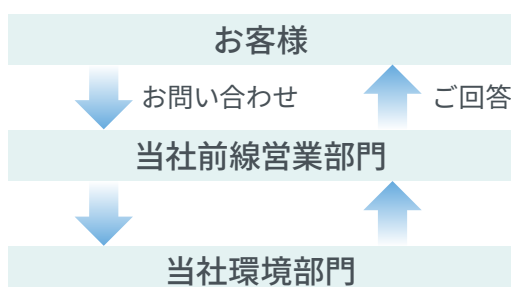
EU RoHS指令対象物質に関し、現在の規制対象6物質 (Pb、Hg、Cd、Cr6+、PBB、PBDE) に加えて、フタル酸エステル4物質 (DEHP、BBP、DBP、DIBP) が追加されました (2019年7月22日)。当社では、このような動きに対応し、フタル酸エステル4物質の代替化をすでに完了しています。

今後も、国内外の製品含有化学物質に関する政策・規制の最新動向を常に収集し、各種法規制の対象となる化学物質の代替化を推進していくとともに、必要に応じて当社の定める「調達禁止物質」「調達管理物質」を見直すなど、当社のグリーン調達ガイドラインへの反映を行っていきます。

当社グループの製品含有化学物質管理に関わる法規制等

- ・国内法規制等: 化審法、化管法、等
- ・海外法規制等: 各国RoHS関連規制、WEEE指令、欧州ELV指令、REACH規則、ErP指令、等
- ・その他: 顧客要求、等

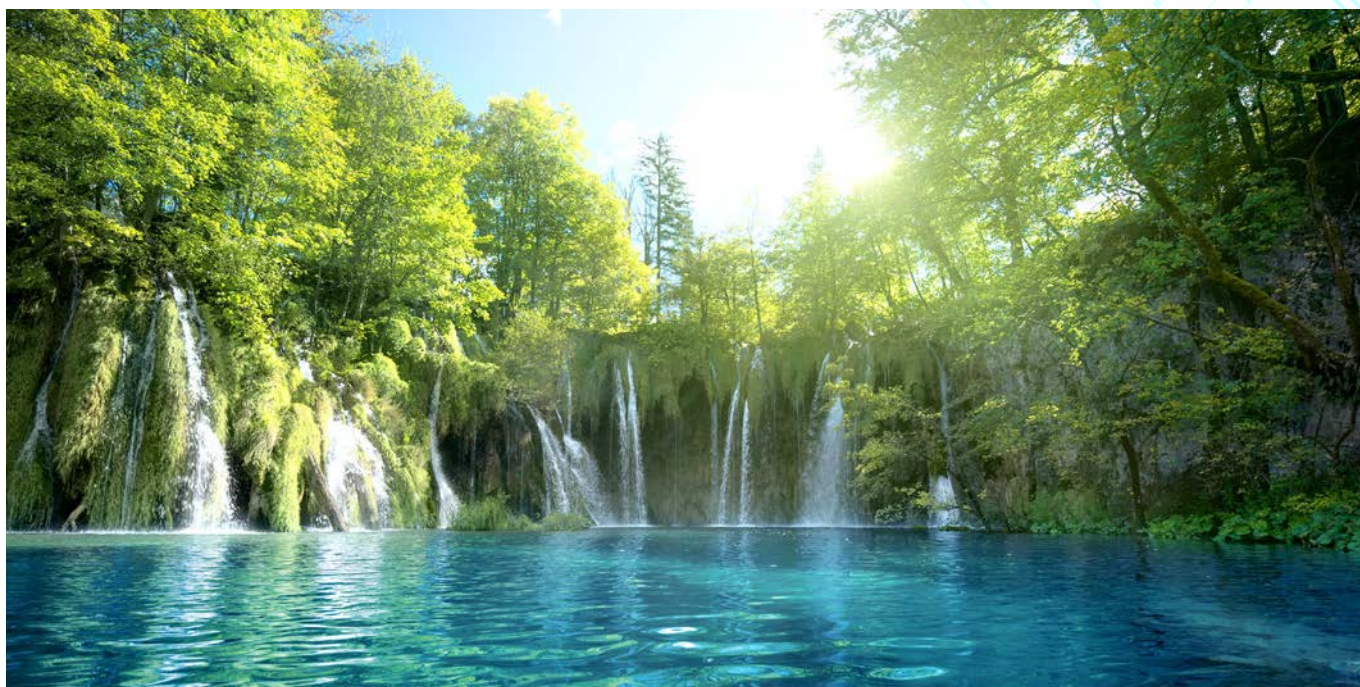
お客様からのお問い合わせ対応



お客様からの製品環境品質に関する、以下のようなお問い合わせに対して、随時ご対応いたしております。

1. 納入製品に関する化学物質の含有状況
2. 製品含有化学物質の管理体制
3. その他製品環境品質に関するお問い合わせ

モノづくりにおける環境負荷低減



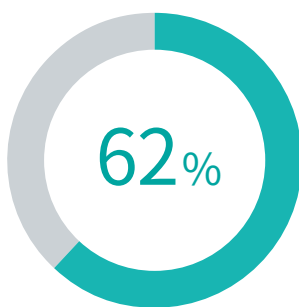
生産工程で発生する環境負荷と製造コストを同時に削減する“高効率モノづくり”を追求しています。情報化社会の進展に伴い、市場の旺盛な需要に応じていくために当社の半導体・HDD製品は生産能力の拡大・増強を続け、部品・材料事業は高機能材料、産業医療など幅広い分野の精密電子部品を提供しており、環境負荷は当面増加する見込みとなっています。しかし、エネルギー効率の高いプロセス・設備の導入や、製品の部材デザインの見直しによる資源投入量の抑制など、様々な施策を組織横断的に推進していくことで、自社から排出する環境負荷の抑制に取り組んでまいります。

また、当社グループは、東芝グループ内に占める環境負荷が大きいとため、環境負荷の削減について今後も積極的な取り組みを進めてまいります。

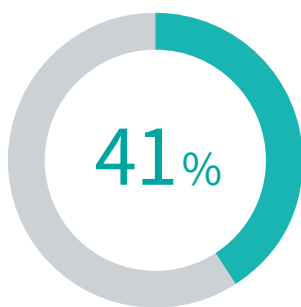
東芝グループ全体における当社グループの環境負荷割合

(2018年度実績)

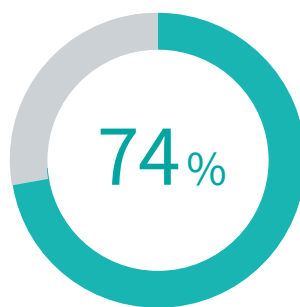
温室効果ガス総排出量



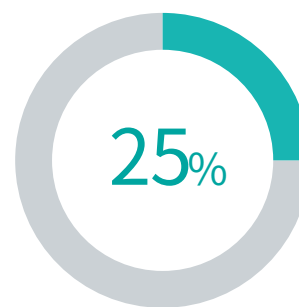
化学物質排出量



水資源受入量



廃棄物量



■当社グループ
■当社グループを除く東芝グループ全体



半導体製品、HDD製品などの製造過程ではクリーンルームの空調管理、製造装置の稼働、製品試験などにより多くのエネルギーを使用します。また、半導体製造のエッチング工程等では、PFC（パーフルオロ化合物）ガスの使用、空調等の冷却設備ではHFC（ハイドロフルオロカーボン）等のフロン冷媒が使用されています。これらのガスの中には、CO₂の数千倍以上の温暖化につながるものも使用されています。

当社グループでは、2004年より組織を横断したプロジェクトを立ち上げ、“高効率モノづくり”を中心に、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。設備更新の際、省エネ効果の高い設備、温室効果の低い冷媒装置の検討を行っています。現状クリーンルームの稼働には多大なエネルギーを使用しており、各工程に同種の設備が多数存在します。プロセスへの理解と気づきが、大きなエネルギーの削減、ガスの削減につながります。

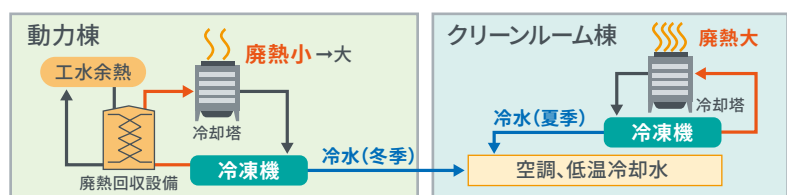
事例 CO₂削減施策

廃熱利用の拡大・効率化

(株)ジャパンセミコンダクター 本社・岩手事業所

未利用だったクリーンルーム棟の廃熱を活用するべく、ラインを新設しました。冬場の廃熱需要が多い時期は、動力棟から冷水を供給し、逆に夏場は、クリーンルーム棟内の冷凍機を使用し送水電力を抑えます。

このように事業所全体のエネルギーを考えた廃熱活用を拡大しています。



本施策によるCO₂削減量 650t-CO₂/4カ月 (2019年12月～2020年3月)

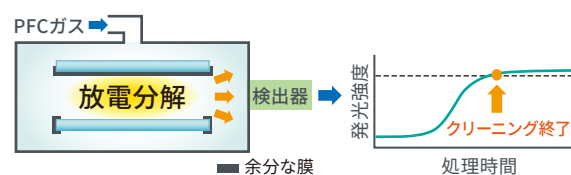
事例 PFC削減施策

クリーニング終点の最適化による PFCガス使用量の削減

(株)ジャパンセミコンダクター 本社・岩手事業所

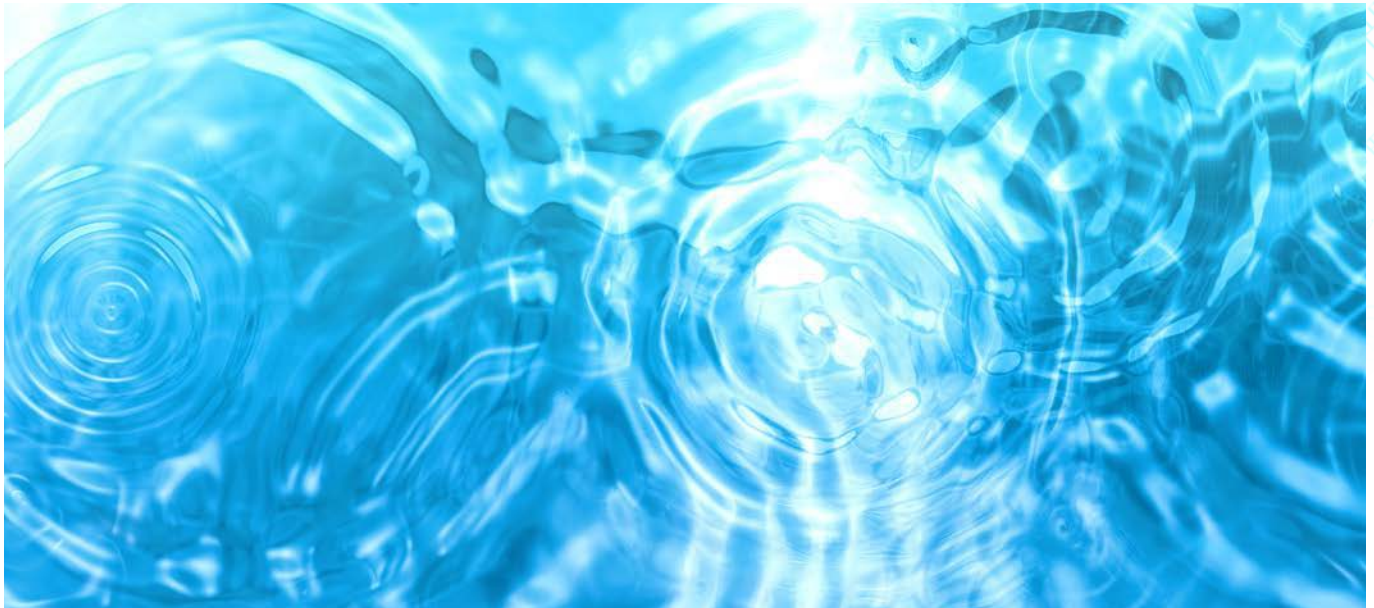
成膜装置では、製品不良の原因となる装置内に付着した余分な膜を除去するため、定期的にPFCガスを使い、クリーニングを行います。PFCガスは装置内で放電分解され膜を除去していきます。

この時発生するフッ素ラジカルの発光からクリーニングの終了を確認することにより、処理時間の適正化によるPFCガスの使用量削減、また、使用ガス種の検討を行うことができます。



本施策によるCO₂削減量 526t-CO₂/年

高効率な水の利用



半導体やハードディスクを製造するためには、薬品の希釈用や洗浄水、装置の冷却水など非常にたくさんの水を使用します。東芝グループの中でも水の使用量が多い当社グループでは、井戸水の利用、水の再使用、再生使用にも積極的に取り組み、水資源を有効に利用することに日々努めております。

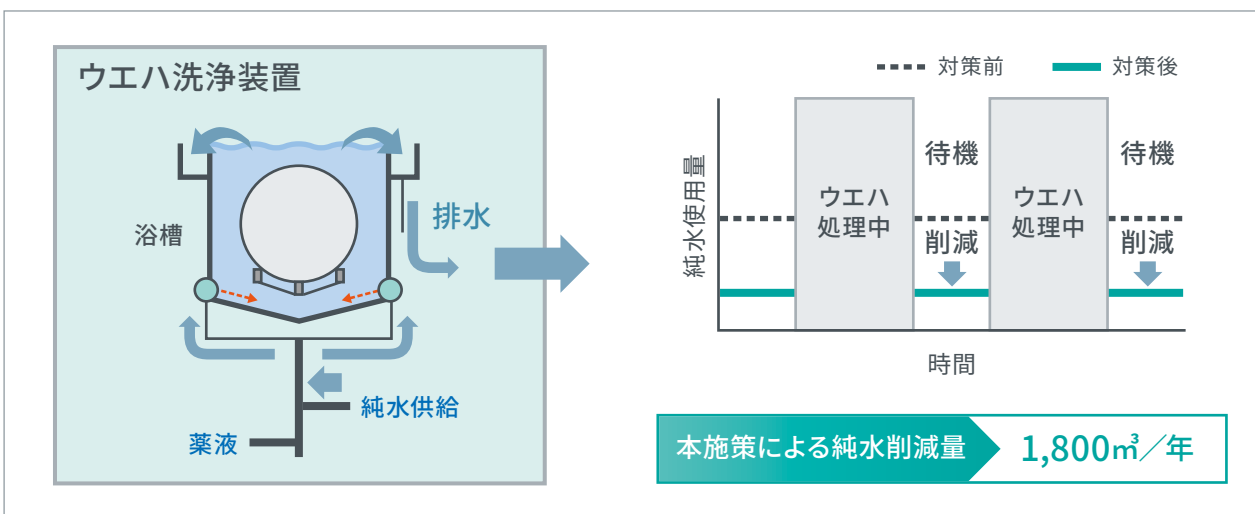
事例

水受入力削減施策

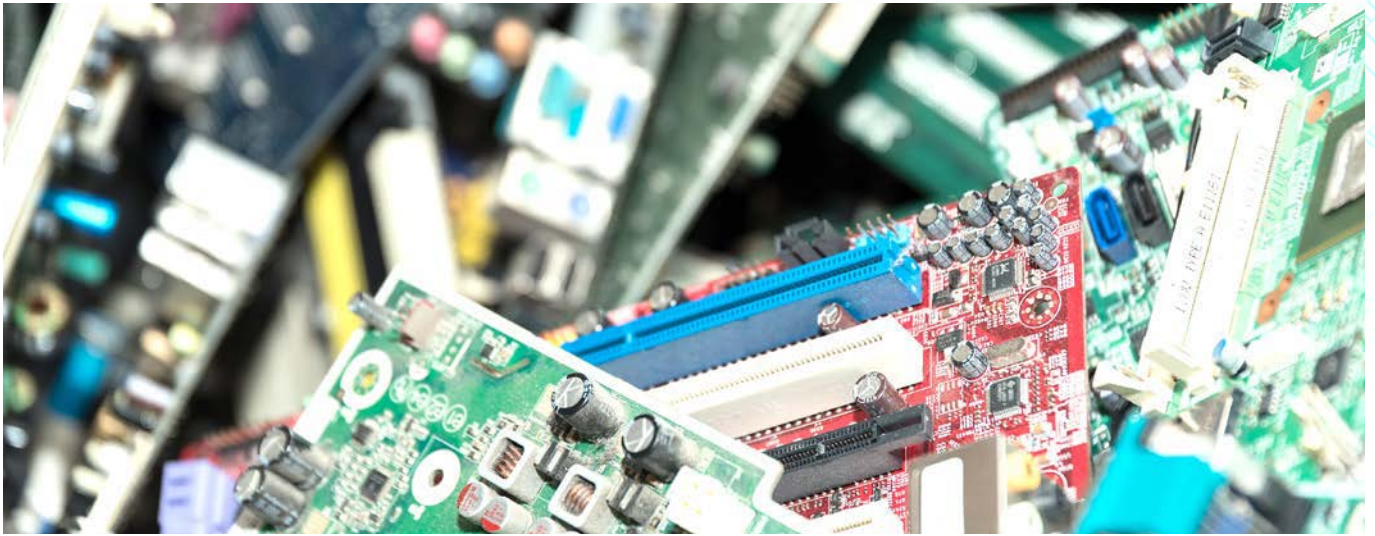
装置待機時の純水量使用の削減

加賀東芝エレクトロニクス(株)

ウエハ洗浄装置は、装置浴槽内、配管内での水の水質を高く保つために、常に純水を供給しています。装置待機時に過剰に流している純水量を、適正化することにより純水量の削減を行っています。



廃棄物の発生量削減と資源循環への貢献



半導体などの製造過程では、廃プラスチック、廃薬品、排水処理後の汚泥などの産業廃棄物が発生します。循環型社会の構築を目指し、共通認識として事業活動に伴う廃棄物の発生量削減と資源循環への貢献の両側面から積極的に取り組み推進しております。

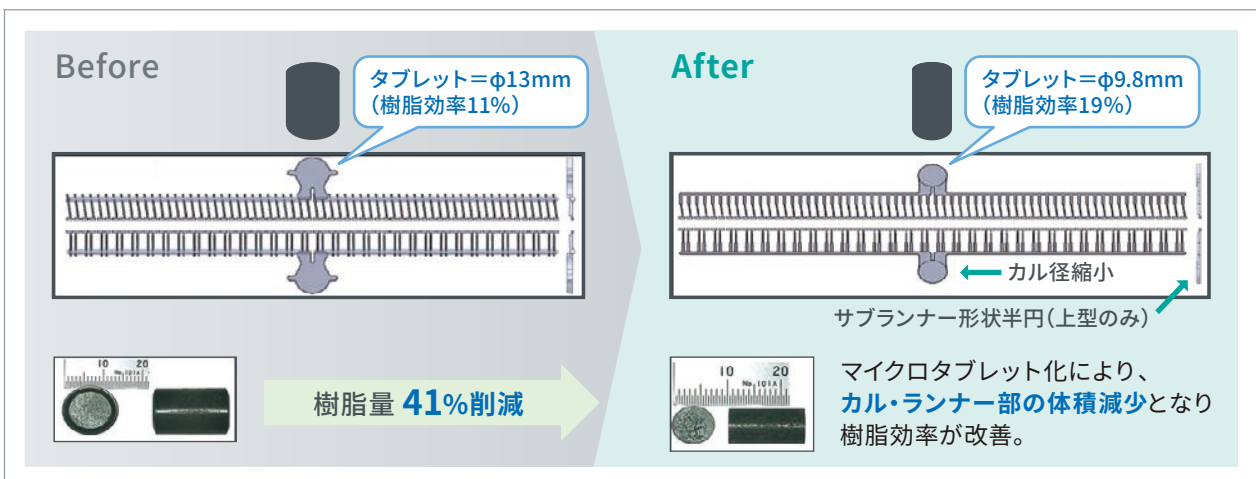
各拠点においては徹底した分別により資源リサイクルを進めると共に、改善と啓発活動による資源消費の最小化、薬品使用量適正化など、資源の有効活用を常に意識することでインプット側の消費量を削減し、結果としてアウトプット側の廃棄物削減にもつながっています。

事例

S-MINI モールド樹脂効率改善による廃棄物削減

豊前東芝エレクトロニクス(株)

半導体製造(小信号)のモールド工程において、パッケージを形成するためにタブレット樹脂を使用しています。この樹脂は製造上の特性より大半が廃棄物となっており環境面、材料効率の面で課題となっていました。今回このモールド工程で使用する設備の金型の改造、射出スピードや圧力などの条件を確認、見直しをする事で小型化された樹脂(マイクロタブレット)の使用が可能となりました。



樹脂量削減効果 41%/年

材料効率改善効果 11%→19%/年

モールド樹脂廃棄物量削減効果 9t/年

化学物質の管理および削減による環境リスクの低減



有害な化学物質をできるかぎり使用しないことおよび無害な化学物質への代替を進めていくことはもとより、使用する化学物質については製造プロセスの改善や歩留りの改善など生産性向上を図ることにより使用量の削減(使用量の最適化)を行っています。また、使用した後の化学物質についてもリユースやリサイクル、排ガス処理や排水処理による無害化を行い、地球環境への影響を最小限に抑える取り組みも進めています。

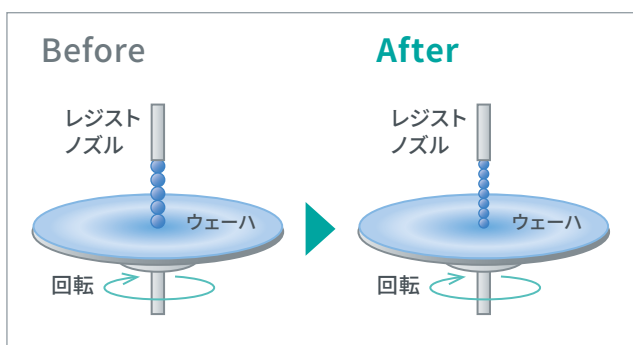
このように化学物質の使用と排出・廃棄の両面で削減や改善に取り組むことにより、事業活動における環境リスクの低減を推進するとともに地球環境の保護にも貢献しています。

事例

半導体製造工程における化学物質の使用量と排出量の削減 (レジスト塗布最適化)

東芝デバイス&ストレージ(株)姫路半導体工場
(株)ジャパンセミコンダクター本社・岩手事業所/大分事業所
加賀東芝エレクトロニクス(株)

半導体製造工程(前工程)のレジスト工程で使用する薬品使用量につき、多品種の製品に適用させるため工程や設備毎に最適条件を検討し、化学物質の使用量と排出量を削減しました。



本施策による
化学物質
削減率

最大52%削減/年(対前年比)
(株)ジャパンセミコンダクター
本社・岩手事業所

環境コミュニケーション

4 質の高い教育を
みんなに



6 安全な水とトイレ
を世界中に



11 住み続けられる
まちづくりを



14 海の豊かさを
守ろう

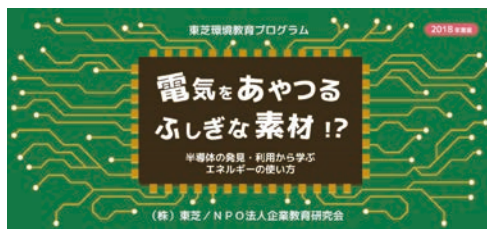


15 陸の豊かさも
守ろう



国内・海外の各拠点で環境教育や生物多様性保全活動をはじめとした積極的な環境コミュニケーション活動を通して、社会への環境情報の発信と従業員の環境意識向上を目指しています。

環境教育



“IoT社会を支える半導体製造企業だからこそ教えられること”

未来を担う子どもたちに向けて、国内・海外の製造拠点を中心に様々な環境教育を実施しています。2018年度からは、新たな試みとして全国の製造拠点の近隣の子どもたちを対象に、半導体を使った環境教育を開始しました。

子どもたちにとって身近な工場で作っている半導体製品を通して、環境問題を考えるきっかけにさせていただきたいと思っています。

活動レポート | 小学生向け半導体環境教育

半導体ってどんなもの？子どもたちに半導体を知ってもらい、私たちの生活や環境にどのように役立っているのかを体験型の授業で学んでもらいました。

「理科」好きな先生と子どもが多く、授業は盛況のうちに終了。子ども達からは「半導体が信号機の中など身近にあることがわかった」「こんなに細かいものを作れるのはすごい」、担任の先生からは「新しい考えを提案できる人間になれるよう日頃から教えているが、それを後押ししてくれる授業だった」といった感想が寄せられました。子どもたちの学び場の近くにある工場として、半導体が暮らしの豊かさや省エネ社会の実現に役立っていることを伝えていきます。

19年度実施拠点

東芝デバイス&ストレージ(株) 姫路半導体工場 : 5年生 108名参加
(株)ジャパンセミコンダクター 大分事業所 : 5年生 193名参加
豊前東芝エレクトロニクス(株) : 6年生 35名参加



コミュニケーション

(株)ジャパンセミコンダクター 本社・岩手事業所

地域とはじめる環境報告会

地域や行政の皆様に向けて情報公開を行い、活動への助言をいただき、その内容を今後の活動に活かすことを目的に「地域とはじめる環境報告会」を毎年実施しています。報告会は今年で15回目を迎え18名に参加いただきました。今後も地域と一体化した活動を継続してまいります。



加賀東芝エレクトロニクス(株)

行政定期立入調査の実施

公害防止協定締結事業所では行政の立入調査が定期的実施されます。地域の皆様に対して安全な工場であり続けるため、安定操業と正しい情報公開に努めています。

地域共生

|(株)ニューフレアテクノロジー

国際海岸クリーンアップ活動

従業員が神奈川県藤沢市の鵠沼海浜公園にて開催の一般社団法人JEAN主催の国際海岸クリーンアップ活動に参加しました。国際海岸クリーンアップ活動は世界各地の海・川・湖などの水辺で同じ時期に同じやり方で拾ったごみを調査して、そのデータを共有する国際的な活動です。拾ったゴミには細かい廃プラゴミが多数含まれていました。



|東芝電子部品(上海)有限公司

外来種“刺果瓜(アレチウリ)”の除去活動

従業員が外来種“刺果瓜”の除去を行いました。刺果瓜はウリ科の大型のツル植物で、生育速度が非常に速く、在来の生態系に深刻な悪影響を及ぼします。身近な生態系を守る活動を通して環境意識の向上を図っていききたいと思います。

|加賀東芝エレクトロニクス(株)

加賀東芝の森 整備活動

“加賀東芝の森”とは？

いしかわ版里山づくり ISO認証企業として、石川県能美市の辰口丘陵公園内の3.3haを借り受け、“加賀東芝の森”として春と秋の年2回、従業員やその家族で整備活動を続けています。

活動は7年目を迎え、2018年4月には、継続的な活動が評価され『平成30年度いしかわ森林環境功労者表彰』(知事表彰)を受賞しました。



|活動レポート | 第13回 “加賀東芝の森” 整備活動

従業員・構内常駐会社とその家族ら 110名が参加して整備活動を実施しました。新遊歩道整備や倒木の撤去、下草刈りや、春に植菌したシイタケ原木のホダ木起こしに汗を流し、子供らは木工体験で丸太切りや、リュールシロフォン(木製の音楽器)の作製に夢中で取り組みました。



倒木をみんなで綱引き



新遊歩道の整備



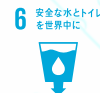
丸太切り体験



リュールシロフォン(木製の音楽器)の作製



生物多様性保全の取り組み



国内外の拠点において自然環境保護の活動に取り組んでいます。

東芝情報機器フィリピン社

フィリピン

マングローブ植林活動



マニラ湾に面するブラカン州のマングローブ林で、私たちは近隣住民、学生たちと、1000株のマングローブの苗木を植林しました。植林したマングローブたちは黒い砂浜に力強く根を生やし、天然の防波堤として海岸線を保護し、水質・生態系を維持します。そして、マングローブが育む豊かな水産は近隣の漁村の生活も支えます。

ウミガメの保全活動

ウミガメの保全活動は2019年からスタートしました。観光客が多く訪れるカヴィテ州のラバクにある美しい砂浜でウミガメの放流活動に参加しました。



ウミガメの放流



ウミガメ

また、ウミガメの産卵に合わせて砂浜の清掃活動を行いました。今後も砂浜の環境保全に取り組み、海洋生態系を保全します。

東芝セミコンダクタ・タイ社

タイ

淡水魚の放流活動

ブラチンブリとサケオの県境にある、ラマ9世によって建設された巨大なダムのできた貯水池で30万匹以上の淡水魚を放流する活動に参加しました。放流した淡水魚は生態系の保全に貢献し、地元の漁業の活性化に寄与します。



淡水魚の放流

姫路東芝電子部品(株)

兵庫県

野路菊の保護活動

日本の固有種である野路菊は黄色の管状花の周りに白い花びらが咲き揃います。古くから親しまれ、兵庫県の「県の花」でもありますが、兵庫県準絶滅危惧種のCランクに指定されています。構内にて、保存・栽培をしています。



一面の野路菊

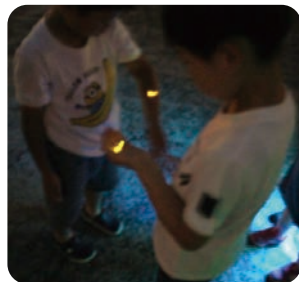
(株)ジャパンセミコンダクター 大分事業所

大分県

ホタルが帰ってくる川へ!

大分事業所が隣接する北鼻川にホタルを呼び戻す活動を始めたのは2010年のことです。地元の皆様と共に活動を続け、2015年ようやくホタルが観察できるようになりました。

今では毎年近所の子供たちと一緒に観察会を開いており、2019年は約150匹が観察されました。



ホタルの観察会

東芝ホクト電子(株)

北海道

エゾサンショウウオの保護

全身が黒褐色で、金色の紋様を持つエゾサンショウウオは北海道の固有種ですが、産卵地の減少が懸念され、北海道のレッドリストの留意種に指定されています。エゾサンショウウオを保護・飼育し、産卵・孵化をさせて自然に返すという生息域外保全での保護活動を実施しています。餌を与えようとすると、隠れていたエゾサンショウウオがこっそりこちらを見つめてきます。そのつばらな瞳には愛らしさを感じます。



全拠点の取り組みは、東芝グループの生物多様性活動ご紹介ページでご覧いただけます。

東芝グループ 生物多様性



表彰活動



|(株)ジャパンセミコンダクター

環境人づくり企業大賞2019 優秀賞受賞

(株)ジャパンセミコンダクターはこれまで同賞で奨励賞、優秀賞、環境大臣賞を受賞しており、今回で4年連続の受賞となりました。社員の啓発活動として省エネ月間の設定(動力施設見学会など)や、普段捨てられる食材を利用したアイデアレシピコンテストを実施するなど多様な取組を行い従業員の環境意識の向上に努めています。また、東北ESDフォーラムや岩手大学との連携、小学生向けの環境学習会に代表されるように多様な主体と連携し、社会貢献や外部とのコミュニケーションを通して環境人材の育成を実施していることが評価されました。



「花咲く道しるべプロジェクト」
花の植栽会

「環境人づくり企業大賞」:

環境省と環境人材育成コンソーシアム*1が主催。地球環境と調和した企業経営の実現を目的に、環境保全や社会経済のグリーン化を牽引する人材を自社で育成するための取り組みが優れている企業を表彰するもの。

*1: 環境人材育成を推進するための産学官民協働プラットフォーム



他企業交流会での
意見交換の様子



今年で16回目を迎えた
小学生向けの環境学習会

|(株)東芝デバイス&ストレージ株式会社グループ

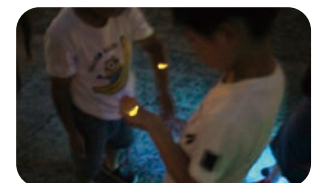
日本自然保護大賞 2020 入選 生物多様性アクション2019 まもろう部門 入賞

全国の製造8拠点において、専門家、NPO・NGO、地域住民や従業員など、様々なステークホルダーとともに生物多様性保全活動を推進しており、この度、その継続的、且つ地域特性を踏まえた取り組みが入賞にふさわしいと評価されました。今後もSDGs持続可能な開発目標や生物多様性への関心や行動の高まりなどを踏まえ、それぞれの拠点において地域の特性を活かした活動を推進してまいります。

- ・東芝ホクト電子株式会社(北海道) 構内におけるエゾサンショウウオの生息域外保全
- ・株式会社ジャパンセミコンダクター本社・岩手事業所(岩手県) 構内におけるサクラソウ、クリンソウ、ニッコウキスゲ、オカトラノオ、エゾエノキの保全と国蝶オオムラサキの呼び込み
- ・加賀東芝エレクトロニクス株式会社(石川県) 構内におけるオオニガナ、カジカエデ、テドリトクサおよび「加賀東芝の森」整備活動
- ・株式会社ニューフレアテクノロジー(神奈川県) 富士山周辺での環境保全
- ・東芝デバイス&ストレージ株式会社 姫路半導体工場(兵庫県) フジバカマとカワバタモロコの生息域外保全
- ・姫路東芝電子部品株式会社(兵庫県) 野路菊およびウマノスズクサの保全
- ・豊前東芝エレクトロニクス株式会社(福岡県) アゲハ蝶の保全
- ・株式会社ジャパンセミコンダクター大分事業所(大分県) ホタルの保全



フジバカマに飛来したアサギマダラ蝶
東芝デバイス&ストレージ(株)
姫路半導体工場(兵庫県)



子どもたちの手のひらで輝くホタル
(株)ジャパンセミコンダクター
大分事業所(大分県)

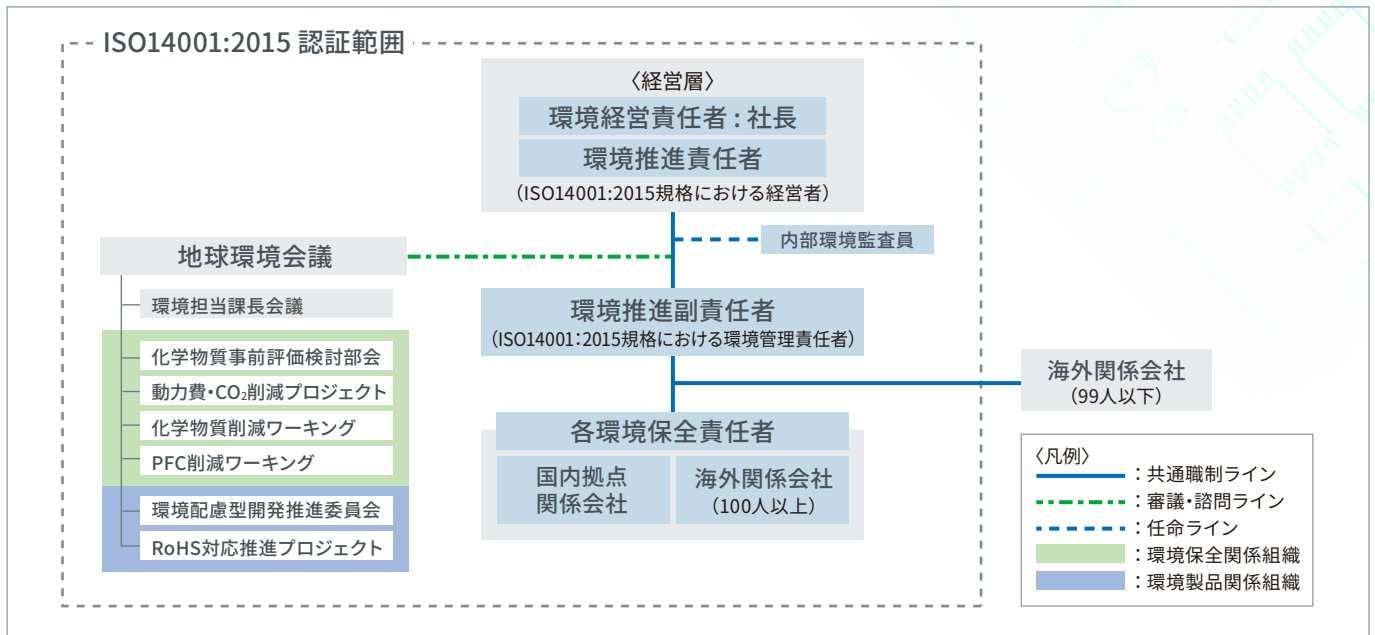


構内で咲き誇る野路菊
姫路東芝電子部品(株)

環境経営の基盤

環境経営体制

経営層をトップに重要な環境課題の管理・対応を行う環境経営体制に基づき、積極的な活動を展開しています。



環境経営を支える活動

■ 環境教育

環境経営の周知と意識高揚のために、全従業員を対象としたeラーニングでの環境教育を実施しています。加えて、東芝グループの社内監査員教育プログラムに基づき、環境関連法規やISO14001、社内の指針や規程などに関する筆記試験や実地研修から成る東芝総合環境監査システムの監査員養成を実施しています。

*1: 東芝全社環境教育と、当社グループ環境教育を、年1回ずつ実施。

■ 法令順守・リスク管理

大気・水域への環境負荷排出などについて、法律*2の規制よりも厳しい自主管理値を設定し、拠点ごとに順守しています。しかし、2019年度は、一部工場の排水不具合、行政許認可・届出漏れなど、計3件の環境法令に関する不具合が発生いたしました。改めて法令順守、リスク管理の徹底を、全従業員で図ってまいります。

*2: オゾン層保護法、化審法、水質汚濁防止法、等

■ 地球環境会議

環境経営責任者を議長に、経営幹部を委員とした地球環境会議を年2回開催し、環境経営指針を決定するとともに、法令対応などの重点施策、拠点活動の状況報告、その他個別の環境課題などについて討議します。決定事項については、拠点長・関係会社社長を通じて従業員に末端まで周知します。

■ 東芝総合環境監査の実施

1993年より、東芝及び各分社会社を対象に、「三全主義(全域の、全設備施設を、全員で管理)」と「三現主義(現場、現物、現実)」および「目視管理(見る、見える、見せる管理)」を基本理念として、定期的な環境監査を実施しています。監査項目は、1) 環境経営監査、2) 遵法監査、3) 現場監査からなり、中でも現場監査では法の適用を受ける対象19施設に加えて、緊急時を想定した対応訓練の有効性監査も実施しています。また、法令順守や計測管理、4S(整理、整頓、清掃、清潔)、従業員教育なども精査します。なお、監査において抽出された改善事項については、半年以内に処置を実施し、現場管理の更なる効率化や継続的改善につなげていきます。

全従業員向け
環境教育
年2回*1

環境法令に
関する不具合
3件

地球環境会議
年2回

東芝総合
環境監査
11拠点

ISO14001認証取得情報

事業プロセス全体を包含したグローバル統合環境マネジメントシステムを構築し、**2019年8月7日には本社及び国内9サイト・海外7サイト*1ISO14001(2015年版)の認証を更新し、環境経営活動を推進しております。**

今後も、グローバル統合環境マネジメントシステムに基づき、事業方針と整合した省エネ・省資源製品の創出及び提供により社会課題の解決に貢献すると共に、組織が環境に及ぼす影響を最小限に抑え、地域特性に配慮した環境コミュニケーションや生物多様性保全を行うなど、効果的な環境経営活動を展開してまいります。取得拠点・関係会社および認証番号等は下表をご参照下さい。

サイト名	認証機関	登録日	認証番号
東芝デバイス&ストレージ(株) 本社 (半導体及びストレージ製品に関する国内営業拠点を含む)	JACO*2	1996.02.02	EC98J2014
東芝デバイス&ストレージ(株) 姫路半導体工場			
東芝デバイス&ストレージ(株) 本社分室 (小向分室・半導体システム技術センター分室)			
加賀東芝エレクトロニクス(株)			
姫路東芝電子部品(株)			
豊前東芝エレクトロニクス(株)			
(株)ジャパンセミコンダクター 本社・岩手事業所			
(株)ジャパンセミコンダクター 大分事業所			
(株)ニューフレアテクノロジー			
東芝デバイス(株)			
東芝デバイスソリューション(株)			
東芝セミコンダクタ・タイ社			
東芝エレクトロニクス・ヨーロッパ社			
東芝エレクトロニクス・アジア社			
東芝電子部品(上海) 有限公司			
東芝エレクトロニクス・アジア社(シンガポール)			
東芝エレクトロニクス台湾社			
東芝エレクトロニクス韓国社			
東芝マテリアル株式会社			
東芝ホクト電子株式会社	JACO*2	1998.09.25	EC98J1066
東芝アメリカ電子部品社	DNV*2	2010.06.29	10000244915- MSC-ANAB-USA
東芝情報機器フィリピン社	TÜV Rheinland	2018.11.20	01 104 023260
東芝ホクト電子タイ社	BUREAU VERITAS	2001.03.16	TH012209

*1:半導体およびストレージ製品に関わる国内の本体と連結対象会社(製造・非製造会社)の全てと、
海外の連結対象会社(製造・非製造)のうち、従業員数100人以上の会社が対象

*2: JACO: 株式会社 日本環境認証機構 DNV: DET NORSKE VERITAS AS Group

第三者評価への協力

(株)東芝は、環境パフォーマンスデータの信頼性向上を目的とした、温室効果ガス排出量に係る第三者検証を受けており、当社グループも東芝グループの一員として検証に協力しています。2019年度は、当社グループ拠点からは、株式会社ジャパンセミコンダクター 本社・岩手事業所を対象にデータの収集・集計・内部検証プロセスなどについてグローバルなデータを対象に検証を受けました。



ステークホルダーエンゲージメントの状況

ステークホルダーとのコミュニケーションを積極的に実施し、その中で明らかになったニーズを基に重要な環境課題の特定や対応方針の決定などを行うことで、環境経営のさらなる改善を目指します。

ステークホルダー	エンゲージメントの機会	実績
調達先様	・「グリーン調達ガイドライン」の周知徹底	・調達先向けグリーン調達説明会の実施
	・部材調達先様を対象とした監査実施	・全ての部材調達先様を対象として、3年に1回監査を実施
お客様	・ステークホルダーとのコミュニケーション	・環境報告書の発行 -日本語版:2019年9月30日発行 -英語版 :2019年11月29日発行 ・社外HP「環境への取り組み」公開
	・環境調査対応	・お客様からの製品環境品質管理体制、製品含有物質、環境保全に関する調査等につき、随時対応
社内	・社内向け環境教育の実施	・全従業員向け環境教育(eラーニング)を、年2回実施 ・特定業務従事者への個別教育実施 ・東芝総合環境監査システムの監査員養成教育実施 ・営業部門向け環境法令教育実施
	・地球環境会議の実施	・環境経営責任者を議長に、経営幹部を委員とした同会議を2回実施 ・その他、当社グループ各製造・販売拠点においても同会議を実施
地域社会	・工場と住民との対話	・市民、近隣企業、大学の先生、学生、行政の皆様を招いての「地域とはじめる環境報告会」実施(p.18)
	・教育の提供	・小学生向け環境教育の実施 -Eco楽習会 -出前授業(p.18)
	・地域との交流	・加賀東芝の森における森林保全整備活動実施(p.19) ・ホテルを呼び戻す活動(p.20) ・国道での草刈り・花植え・ごみ拾い活動(p.19) ・近隣企業との合同環境展示会開催

理 念

東芝デバイス&ストレージ株式会社グループは、東芝グループの環境基本方針である「“かけがえのない地球環境”を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。また、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

方 針

東芝デバイス&ストレージ株式会社グループは、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけ「世界を変える原動力となるのは、いつも半導体とストレージであり続けたい」との思いで、開発、製造、販売、サービス、廃棄などの全ての事業プロセスにおいて、ライフサイクルの視点に立って経営と環境を調和した企業活動を実践し、持続可能な社会の実現に向け、技術と想いを載せた製品とモノづくりで、社会課題の解決に貢献する取り組みを行います。

1. 倫理観と継続性

法令、当組織が同意した業界などの指針および自主基準など、当組織の環境側面に適用可能な法的及びその他の要求事項を遵守します。

環境活動レベル及び環境パフォーマンスの向上を図るため、監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行い、効果的な運用を推進します。

2. 実行

企業活動の実行においては、全ての事業プロセスにおける環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、製品の省エネルギー及び省資源開発・設計、環境負荷の低減、汚染の防止に関する環境目標を設定し、積極的な環境施策を展開します。

- 1) 社会課題の解決に貢献する製品を創出し、提供することに取り組みます。
- 2) 気候変動緩和のため、事業活動に伴い発生する温室効果ガスの削減に取り組みます。
- 3) 循環型社会の構築のため、事業活動に伴い投入する資源の最小化と3Rを推進し、廃棄物の削減並びに水資源の有効活用に取り組みます。
- 4) 環境リスク低減のため、事業活動に伴い使用する化学物質の管理、取扱量並びに排出量の削減に取り組みます。
- 5) 自然との共生を図るため、生物多様性の維持・回復に取り組みます。
- 6) ステークホルダーとの相互理解促進のため、情報発信や、地域・社会との連携に取り組みます。
- 7) 環境に配慮した企業活動の実践のため、グループ全員の環境意識向上に取り組みます。

この環境方針は、社内外に開示するとともに、本組織で働くすべての人々に方針を周知し、方針に沿った企業活動を推進します。

2020年4月1日
東芝デバイス&ストレージ株式会社
環境経営責任者 佐藤 裕之

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」との対応表

環境報告ガイドライン 2018年度 項目	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境報告書 2020 対応項目	該当ページ
第1章 環境報告の基礎情報		
1. 環境報告の基本的要件		
報告対象組織	報告の対象範囲	P.26
報告対象期間	報告の対象範囲	P.26
基準・ガイドライン等	環境報告ガイドライン 2018年度	P.26
環境報告の全体像	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目)	P.05-P.07
	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境への取り組み https://toshiba.semicon-storage.com/jp/company/about/environment.html	-
2. 主な実績評価指標の推移	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目)	P.05-P.07
第2章 環境報告の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント		
重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	トップコミットメント	P.03
2. ガバナンス		
事業者のガバナンス体制	環境経営体制	P.22
重要な環境課題の管理責任者	環境経営体制	P.22
重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割	環境経営体制	P.22
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況		
ステークホルダーへの対応方針	ステークホルダーエンゲージメントの状況	P.24
実施したステークホルダーエンゲージメントの内容	ステークホルダーエンゲージメントの状況	P.24
4. リスクマネジメント		
リスクの特定、評価及び対応方法	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目) モノづくりにおける環境負荷低減	P.05-P.07 P.13
上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目) モノづくりにおける環境負荷低減	P.05-P.07 P.13
5. ビジネスモデル		
事業者のビジネスモデル	バリューチェーンマネジメント 社会課題の解決に貢献する製品	P.08 P.09-P.10
6. バリューチェーンマネジメント		
バリューチェーンの概要	バリューチェーンマネジメント	P.08
グリーン調達の方針、目標・実績	バリューチェーンマネジメント 環境に配慮した資材調達	P.08 P.12
環境配慮製品・サービスの状況	バリューチェーンマネジメント お客様からのお問い合わせ対応	P.08 P.12
7. 長期ビジョン		
長期ビジョン	東芝グループ 第6次環境アクションプラン	P.04
長期ビジョンの設定期間	東芝グループ 第6次環境アクションプラン	P.04
その期間を選択した理由	東芝グループ 第6次環境アクションプラン	P.04
8. 戦略		
持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目)	P.05-P.07
9. 重要な環境課題の特定方法		
事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	東芝グループ 第6次環境アクションプラン 東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目)	P.04 P.05-P.07
特定した重要な環境課題のリスト	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目)	P.05-P.07
特定した環境課題を重要であると判断した理由	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目)	P.05-P.07
重要な環境課題のバウンダリー	バリューチェーンマネジメント	P.08
10. 事業者の重要な環境課題		
取組方針・行動計画	東芝グループ 第6次環境アクションプラン 東芝デバイス&ストレージ株式会社グループ 環境方針	P.04 P.25
実績評価指標による取組目標と取組実績	東芝デバイス&ストレージ株式会社 環境パフォーマンス 目標・実績 (全11項目)	P.05-P.07
実績評価指標の算定方法	(株)東芝 環境活動ホームページ「環境会計」に含まれる https://www.toshiba.co.jp/env/jp/management/account_j.htm	-
実績評価指標の集計範囲	(株)東芝 環境活動ホームページ「環境会計」に含まれる https://www.toshiba.co.jp/env/jp/management/account_j.htm	-
リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	(株)東芝 環境活動ホームページ「環境会計」に含まれる https://www.toshiba.co.jp/env/jp/management/account_j.htm	-
報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	第三者評価への協力	P.23

報告の対象範囲 対象期間：2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)
活動実績データについては、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。
対象組織：東芝デバイス&ストレージ株式会社グループ*を対象としています。
*※東芝の分社会社である東芝デバイス&ストレージ株式会社と国内・海外の関係会社を指します。

発行時期 今回：2020年7月(前回：2019年9月)

編集後記 このたびは「環境報告書2020」をお読みいただきまして有難うございます。
今回は東芝グループ第6次環境アクションプランを踏まえた実績・目標と、それらのSDGsへの貢献、そしてバリューチェーンマネジメントやステークホルダーエンゲージメントについて新たに紹介し、当社の環境活動がSDGsやステークホルダーからの要求にいかなる形で応えているかについて、詳しくご説明いたしました。その他本誌でご紹介した最新の活動事例と合わせて、当社の環境活動を通じた社会への貢献について、理解を深めて頂ければ幸いです。

当社の活動や本報告書の内容に関するご質問などがございましたら、以下のURLを通してお寄せくださいますよう、よろしくお願いたします。

URL：<http://toshiba.semicon-storage.com/jp/corporate/environmental-activities.html>

東芝デバイス&ストレージ株式会社 生産企画部 環境企画推進担当

環境報告書 2020

- 国内外法規制等は随時改訂される可能性がありますので、常に最新情報を参照されるようご注意ください。
- 本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。

世界を変える原動力となるのは、
いつも私たちの半導体・ストレージであり続けたい。